

(仮称) 公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟基本設計の 進捗状況について

2022年9月から基本設計に着手し、「(仮称) 公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟」の建物配置等について検討を進めてまいりましたので、その概要について報告いたします。

1 基本設計の検討状況について

基本設計における建物の配置等についての検討は別紙の通りです。

2 基本設計の検討経過でいただいていたご意見の概要

(1) 芹ヶ谷公園文化ゾーンネットワーク

日時：2月6日（月）16時から18時

主なご意見

- ・設計を進めるにあたっては地元住民を含め、広く市民に周知をして欲しい
- ・工房の見学動線などに配慮した設計にして欲しい

(2) 版画工房・アトリエ利用者

日時：2月26日（日）13時から14時50分

主なご意見

- ・版画工房と工芸体験スペースの分離や版画工房の機能の維持など、前回の説明会で出た意見が反映されており、感謝している。
- ・暗室とドライエリアの間に扉を設置し、使いやすい動線にして欲しい。
- ・今後、版画工房内の詳細な寸法が記された平面図を示して欲しい。
- ・版画工房が移転する理由がわからない。

(3) 芝好園自治会（建設敷地に隣接する町内会自治会）

日時：2月26日（日）15時30分から17時

主なご意見

- ・自然との調和を大事にして、周辺に住んでいる住民が日々散歩を楽しめる場所にしてもらいたい
- ・擁壁等の工事は、安全性の確保されたものをきちんと整備して欲しい
- ・工事施工前には、防音・防塵対策などを含めた工事実施方法などについての工事説明会を実施して欲しい。

3 今後の予定

いただいたご意見を参考に、2023年4月を目途に基本設計を進めてまいります。その後、2024年3月には実施設計を完了させ、2024年度から2025年度にかけて工事を行い、2025年10月の施設オープンを予定しております。

00 基本計画からの流れ

■全体コンセプト

「パークミュージアム」は博物館や美術館のように展示されているものを鑑賞するだけでなく、町田の多様な文化芸術の活動や公園の豊かな自然を体験しながら学び楽しむことができる、新しい体験型の公園です。

■美術エリアの形成

二つの美術館と「(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟」は、公園と連続し、パークミュージアム全体に美術活動を展開する拠点「美術エリア」を形成します。

この三者が密接に連携することで、国際版画美術館の果たしてきた「鑑賞」「創作」「発表」の役割を、より発展・継承させていきます。

01 基本設計

■配置計画

○2つの美術館との連携

来園者が気軽に施設に立ち寄れるよう、開かれた広場を囲むように、建物を配置します。

広場を介して、二つの美術館、公園との連続性、一体性を創出します。

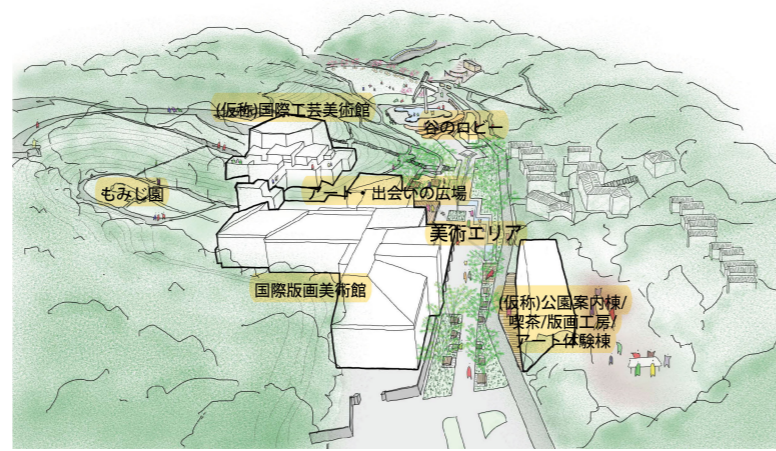
■ゾーニング計画

○広場に面した「喫茶」と「公園案内」

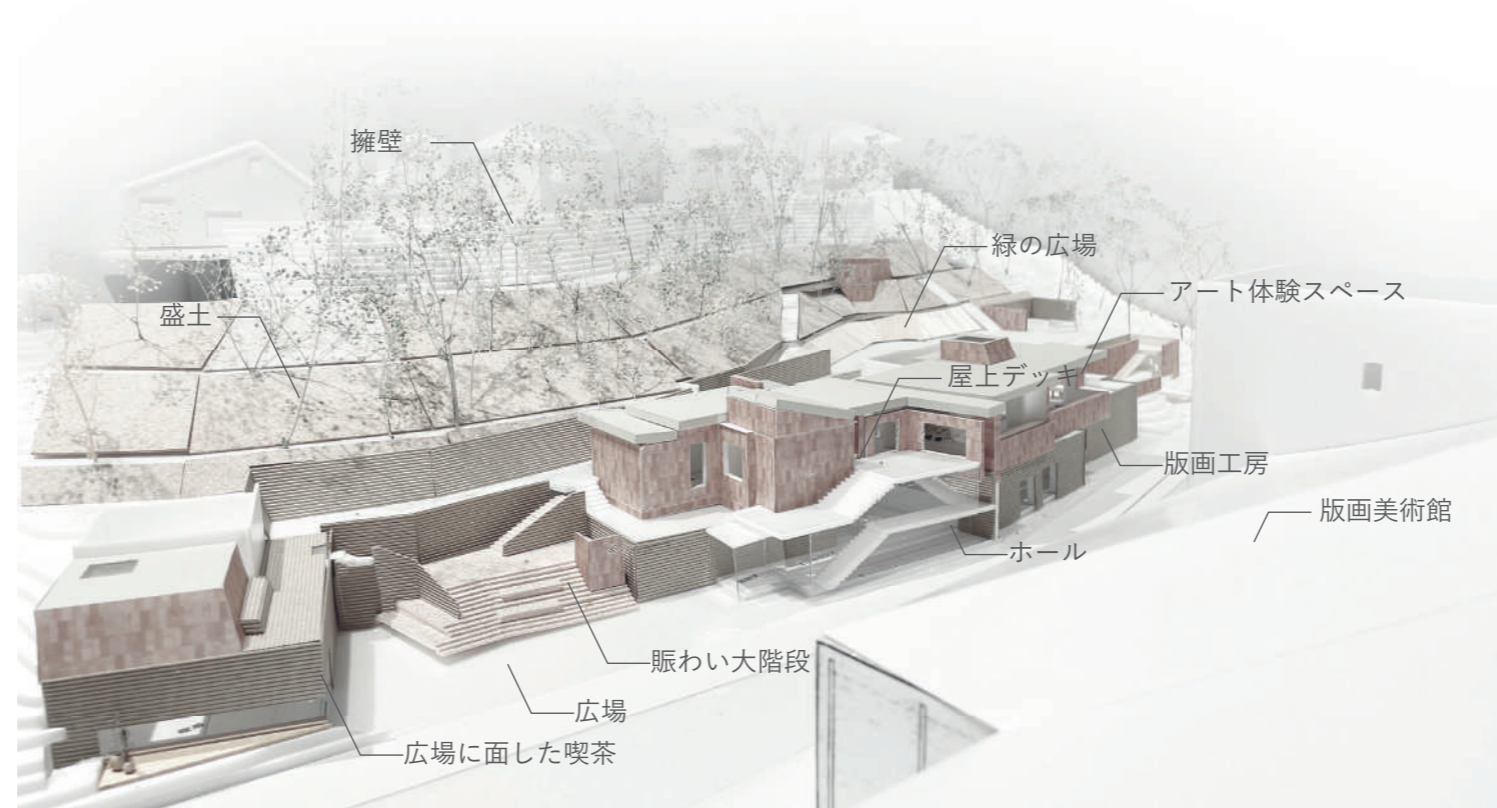
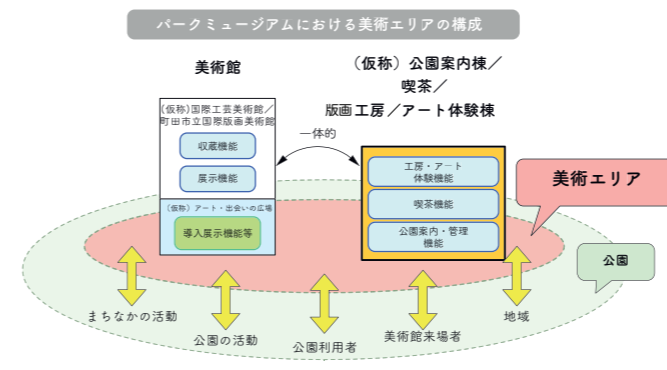
ふらっと立ち寄ってみたいくなるように居心地がよく、様々な活動や体験を感じることができ、そして誰もがつながるきっかけを得られるような場となるよう、広場に面して「喫茶」「公園案内」を配置しました。

○外から様々な活動が見える建築

来園者がアート活動に興味をもってもらえるよう、内部での活動の様子が外から見えるように配置します。また、施設に訪れた人がいろんな活動に出会えるように、ホールや広場を中心に各機能を配置します。



※基本計画時におけるイメージ



■美術エリアに様々な機能を再配置します

美術館のコアとなる機能(展示・収蔵等)を中心としたコンパクトな(仮称)国際工芸美術館を整備する一方で各種のサービス機能や工房等の体験や教育普及機能については公園全体の施設や機能と一体的に捉え、効果的・効率的な機能の再配置を行います。

「(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟」は、工房機能を中心に、多様な世代の人々がアートに触れ合うことができる機会を提供する場として、また、パークミュージアムの総合案内や創作・体験活動が集約した玄関口として、アートや芹ヶ谷公園の情報・魅力を提供します。

■外構計画

○公園の入り口となる開かれた建築

歩きながら創作の様子を楽しめたり、自然を感じることができるような園路を整備します。

芹ヶ谷公園の回遊がこの敷地までつながり、パークミュージアム全体を楽しめるような外構計画とします。

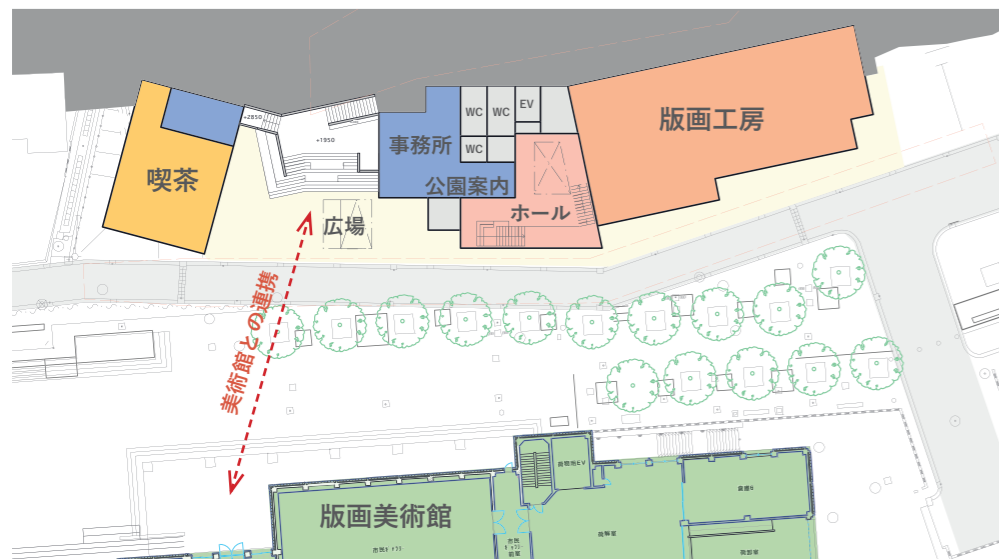
○緑豊かな公園、環境に馴染んだ建築

建物が緑豊かな公園に馴染み、周辺環境から浮いたものにならないように、住宅スケールを考慮したボリューム感として全体が建ち現れるよう配慮を行います。

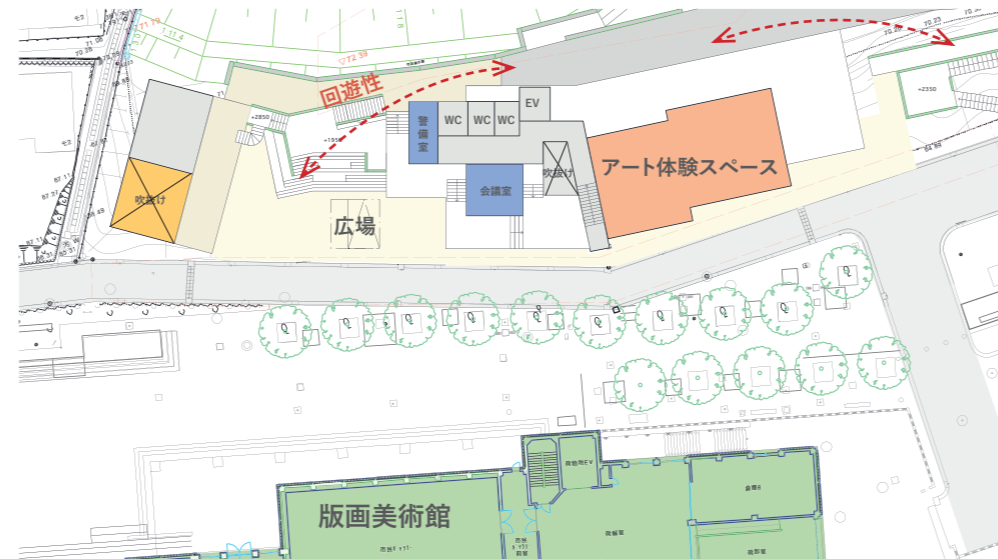
■敷地の造成計画

○敷地内の安全性を確保するための計画

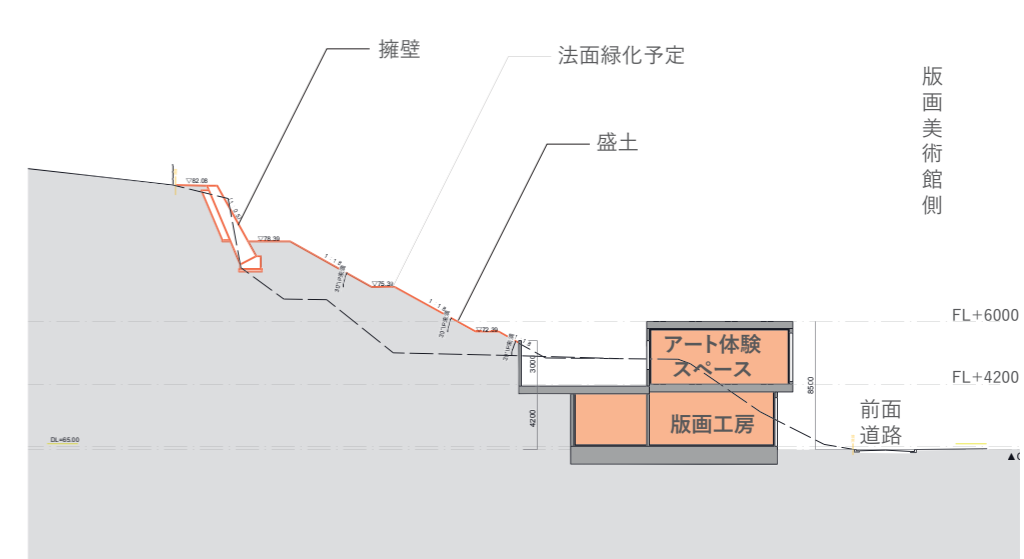
敷地内の土砂崩れを防ぐために、擁壁の配置や法面を整形する盛土を行うことで、敷地の安全性を確保します。



【1階平面図】



【2階平面図】



【断面図】

02 版画工房(1F)/アート体験(2F)棟の概要

○多様な人々の創作意欲を喚起します。

版画工房やアート体験スペースを園路に面した場所に配置します。創作活動の場が広く開かれ、公園や施設の利用者から制作活動の様子が“見える”ことで、版画や工芸の制作への関心を高めたり、市民の創作意欲を喚起するきっかけ作りに取り組みます。

○国際版画美術館の版画工房・アトリエの機能の維持

新しい「版画工房」では、現在の版画工房・アトリエで制作することができる“銅版画”“リトグラフ”“スクリーンプリント”“木版画”の4版種を、これまでと変わらず制作することができます。

また、新しい「アトリエスペース・工芸体験スペース」では、現在のアトリエで行っているモデルデッサンなどの専門利用(施設貸出)に加えて、様々な体験プログラム、創作ワークショップ等、幅広い制作活動に利用することができます。

■版画工房 (1F)

○大きな一部屋の工房

版画美術館の工房は、2室に分かれており、制作する際には、部屋の移動が必要となることがありました。そこで本計画では制作時の動線に配慮し、一部屋にしました。

○4つのゾーン

既存工房では、各ゾーンの動線が交差していましたが、スクリーンプリント(ピンク)、木版画(紫)、リトグラフ(グリーン)、銅版画(オレンジ)の4つのゾーンを設定し、動線の交差が起これないように配慮しました。また、暗室と屋外(ドライエリア)を利用するスクリーンプリントと腐蝕室を利用する銅版画をそれぞれ近い位置に配置することで、動線の交差へ配慮を行いました。

■アート体験スペース(2F)

○可動間仕切りによるレイアウト変更

「アトリエスペース」と「工芸体験スペース」は、間仕切り壁で区切ることで安全性を確保しながら複数のプログラムを同時開催したり、間仕切り壁を開放することで大人数の参加するプログラムを大きなスペースで開催するなど、様々な体験プログラムを安全かつ柔軟に実施することができます。

○ガラスや陶磁器の制作を体験できる工芸体験スペース

ガラスフュージング、チルドワーク(電気炉を使用するガラスの技法)、電動ろくろを用いた陶器の成形や、中型電気炉を用いた楽焼など専門的な機器を使い、ものを作る楽しさを体験できます。

○屋外活動との連携

アート体験スペースと屋外体験スペースを連続させることで、屋外での制作を行うことができます。

